

「つくる力」と学校図書館 ～アクティブ・ラーニングを考える～

2016/07/28 岡山県立倉敷工業高等学校 司書（主任） 久戸瀬 瑞季

1 はじめに

倉工図書館キャッチフレーズ

「つくる力（ちから）は考える力から、考える力は読む力から。」

（研究発表の目的）

図書館の活動を生徒の「つくる力」「考える力」の伸長につながるものにするには、どのようなことができるか、「アクティブ・ラーニング」をキーワードに探る

（方法）

- ・「アクティブ・ラーニング」関連書籍、文書等の調査
- ・備中地区高校での図書館を活用した授業の事例の収集
- ・大学図書館のラーニング・コモンズ見学 など



2 学校図書館とアクティブ・ラーニング

1) 「アクティブ・ラーニング」とは？^{*1}^{*2}

○経緯 知識基盤社会^{*3}、高等教育の大衆化、産業界の要請などの背景
アメリカ → 大学（2012「質的転換答申」^{*4}） → 高校へ（2014^{*5}）

○主体 アクティブ・ラーニング＝主体的・能動的な学習を行うのは生徒
教員が行うのは「アクティブラーニング型授業」（一方向的な講義以外の形式）

○3つの学び

中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」（2015.8）において、次期学習指導要領改訂の方向性が示される。 → アクティブ・ラーニングの意義を強調

学び全体の改善の視点 **太字：3つの学び**

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた**深い学び**の過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、**対話的な学び**の過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、**主体的な学び**の過程が実現できているかどうか。

（参考資料）岡山県総合教育センター「アクティブ・ラーニング」はじめの一步（リーフレット）

2) 学校図書館とアクティブ・ラーニング

○学校図書館とアクティブ・ラーニングはどう関わるのか？

→学校図書館では、これまでも言語活動の充実に留意し、探究学習、調べ学習などが行われてきた。
探究学習、調べ学習はアクティブ・ラーニングとして取り組むべきものである。

言語活動はアクティブラーニングの中核的活動と位置づけられるもの

アクティブラーニングは、教科における習得・活用の学習から、(多くの場合)脱教科・総合型における探究の学習まで、あらゆる学習の型で行われる学習

溝上慎一編『高等学校におけるアクティブラーニング 理論編』東信堂, 2016.3

※高大接続改革・・・大学入試が変わることにより、(今度こそ)高校教育も変わる？

→学校図書館において、アクティブ・ラーニングの持つ可能性は大きい。
これから取り組んでいくにも、よいタイミング、チャンスであるといえる。

○方向性・実際の関わり方

- a. 授業外 生徒の自主的な学習の支援 (図書館の基本的な機能)
- b. アクティブラーニング型授業との連携
図書館を活用した授業は、ほぼすべてアクティブラーニング型授業といえる

<参考> 備中地区高校での図書館活用事例

- ・総社南高校「絵本を読んで感想を書く」(家庭科)
- ・笠岡高校「海藻標本しおりづくり・調べ学習」(読書週間行事 (理科との連携))
- ・倉敷商業高校「ビブリオバトル」(国語科)
- ・倉敷青陵高校
「ポスター作成 (1年) / 課題学習 (2年)」
(保健体育科)

- ・多様な資料、情報を活用
- ・楽しく取り組んでいる様子
- ・ICT機器の活用
- ・司書による利用ガイダンス
- ・資料展示との連携 など

3) 実践へのヒント

<参考> 大学図書館でのラーニング・コモンズ^{*7} (アクティブ・ラーニングに対応した学習環境) の例

○アクティブ・ラーニングに対応する図書館の要素

知識の伝達から創造へ

場としての図書館

ICT環境の整備と活用

施設 (学習空間) 学習環境 グループ学習スペース/自習スペース
可動テーブル/いす ホワイトボード
ツールとしてのICT機器やソフトウェアの整備・提供
電子黒板 プロジェクタ PC タブレット プリンタ

資料 (コンテンツ) 蔵書 学習に役立つ資料をそろえる +相互貸借 (他館資料の利用)
情報源として デジタルコンテンツの提供 (整備・作成)
☆多様な本のある空間 (総合的な知/勉強する雰囲気)こそが図書館の優位点①

職員 (人的支援)

学習支援 レファレンス 情報活用支援 ICT活用支援
授業支援 ※児童生徒に対する「教育」に関する役割 (文部科学省の研究協力者会議)
☆司書による生徒・教職員へのサポート 図書館の優位点②

3 今後の課題と展望

○校内での共通認識の形成 学校図書館の担うべき役割、学校司書の役割と教員との協働

読書センター・・・読書教育 ☆図書館 (+国語科)の担当とおおむね認知

学習・情報センター・・・いわゆる情報リテラシー教育 →どこまで主体的に関われるか

☆各教科や授業へ横断的に計画して位置づける必要 (カリキュラムマネジメントの観点)

○地域での共通認識としての位置づけ

→例:「とっとり学校図書館活用教育推進ビジョン」鳥取県教育委員会, H28.3

県教育委員会が学校図書館活用教育を施策としてまとめ、県下全校に普及している

○生涯学習の場としての図書館

(本来)自由、自発的な学習の施設

アクティブ・ラーニングの意義^{*4}

生涯にわたって学び続ける力、
主体的に考える力を持った人を育てる

小中高～大学～公共図書館とつながる

「つくる力」

「まなび」を支援する(できる)こと
教育に関わる人間にとって「楽しい」仕事



みなさんの図書館“オリジナル”の
アクティブ・ラーニング(とその支援)を
ぜひ!生み出してください!

引用元: 國本 千裕 (駿河台大学).

アクティブラーニングとは何か?: 教育と学習の2つの文脈から.

岡山県大学図書館員研修会, 就実大学・就実短期大学図書館 (2015-12-19)

<参考>

※1 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』用語集 2012.8

※2 「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」中央教育審議会 2014.11

※3 「知識基盤社会」：新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会

- (1) 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む。
- (2) 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる。
- (3) 知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる。
- (4) 性別や年齢を問わず参画することが促進される。

中央教育審議会答申『我が国の高等教育の将来像』2005.1

※4 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。

中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』2012.8

※5 「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」中央教育審議会 2014.11

※6 ラーニングコモンズ

複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。

「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」用語解説 2010.12

※7 情報リテラシー

情報を収集・検索・選択・共有・マネジメント・活用・編集・発信する能力のことであり、それらの作業を効果的・能率的に進めるための認知的な処理能力（知覚・記憶・言語・思考）を伴うもの（情報・知識リテラシー）

1. 情報の知識化 情報を受け手の知識世界に位置づけ、行動に影響を及ぼす、意味ある知識とする
2. 知識の活用 知識を身のまわりで起こっている社会や自然を理解するために、あるいは問題解決場面で活用する
3. 知識の共有化・社会化 他者に知識を伝えたり、他者の持つ知識とすり合わせて統合したりすること
4. 知識の組織化・マネジメント 知識世界を整理・関連づけ・グルーピングすること

溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂、2014.9